

# 釘の「連」

山本紀子

Use of the Word "Ren" in Association with Nails

- ①釘の「連」
- ②釘の助数詞
- ③釘の品名としての「連」
- ④「連釘」の流通と意味  
まとめ

## 【縦文欄印】

古代中世の釘売買の史料に「三連釘」「七寸二連」などの表記が見られる。小稿では釘に関わる「連」には、助数詞と品名という二つの用法があったことを明らかにした。「連」は一〇世紀頃から釘一〇本を単位とする助数詞として使用されていた。釘の品名としての「連」の使用は一五世紀以降確認される。一五世紀頃の「一連釘」の品名は百文で買える釘の連数を意味し、釘の寸法や種類が異なっても同じ「連釘」の品名が付けられた。当時、「連」を品名とする釘は、一〇本を一まとめにした状態で流通していたと思われる。一六世紀後半には「連」を品名とする釘は「包」の状態で流通するようになる。江戸時代には「把」の単位にまとめられ、一把の釘の連数がそのままの規格化と、釘の消費流通の拡大を読み取ることができる。